

平成27年度全国麦作共励会における九州農政局管内からの受賞者の紹介

【集団の部】

全国米麦改良協会会長賞 じゅう きえいのうくみあい 重ノ木営農組合（佐賀県鹿島市）

○ 集団の概要

重ノ木営農組合は、4つの地区（小舟津、重ノ木、世間、犬王袋）の農業者で構成されており、平成18年に農作業の受託や共同化を通して、組合員の効率的かつ安定的な農業経営の実現を目的として設立されました。現在の構成員は64名で、経営する水田104haには麦85ha（小麦42ha・二条大麦43ha）、水稲70ha、大豆34haを組み合わせた作付をしており、佐賀県内の平均的な営農組合の経営面積（45ha）の2倍以上の経営面積で農業を展開しています。

○ 技術面の特色

組合の特色として、4つの作業班を中心とした専業農家と兼業農家の連携による作業体制が構築されており、各農作業の計画が地区内の組合員に共有されています。また、適期に実施する必要がある農作業（播種・防除等）は、専業農家のオペレーターを中心に作業調整を行い計画的に実施されています。

良品質麦を生産するための生産技術向上の意識が高く、中核となる専業農家の知識を経験の浅い農家に伝えながら、専業・兼業との共存共栄を図られており、このことが高品質麦の生産と収量の安定化につながっています。

麦作に重要な排水対策では、弾丸暗渠や明渠等による排水対策をはじめ、水稲の作付圃場は中干しと間断灌水、収穫前の10日前から完全落水により、麦作に向けての乾田化が徹底されています。また、生石灰の施用と稲わら・麦わらの全量鋤込みによる土作りの取組により、麦に適した圃場に整えられています。

○ 収量・品質の改善

佐賀県内の27年産の麦は、播種時期の降雨、登熟期の高温により収量の大幅減少がみられる中、組合の10a当たり収量は、小麦のチクゴイヅミで417kg（県平均302kg）、二条大麦のニシノホシで322kg（県平均264kg）となっており、両麦とも県平均単収を大幅に上回っています。

収量の向上と品質改善として、収穫前の全圃場を巡回検見し圃場ごとに収穫時期を決めるなど、適期収穫に向けた作業や共乾施設への荷受の計画作成と作業体制の整備が行われています。

○ 労働時間・コスト削減

労働時間は、機械集約化によるコスト低減と各作業における体系化により省力化が図られています。また、作付する麦は麦種を2つ（小麦・二条大麦）にすることで、集中する播種や収穫等の作業分散、麦種毎の団地化（8ブロック）により作業の効率化が図られています。

コスト削減として、種子を一般採取の種子から直接採取の種子にすることで、種子代の節約（一般採取種子378円/kg → 直接採種210円/kg）を行うほか、肥料の配送先を1箇所にし、肥料メーカーからの直接配送とすることで肥料代の節約を行っています。

○ 今後の取組について

地域の水田農業を確立するため、組合員個々の所有する機械を集約化を図り、大型機械一貫作業や期間借地により地域の水田の有効活用を更に進めるため、麦栽培面積を次年度90ha、2年後100ha、最終的には110haに拡大することを目指しています。